

# 藝陽

題字：本校書道教諭  
坪井宏（号 工廣）先生書

## 第24回 在京芸陽観音 同窓会のご案内

第24回在京芸陽観音同窓会を左記のとおり企画開催いたします。

記

日 時：平成22年10月23日（土曜日）

11時30分 受付

12時00分 同窓会 開会（事業報告・懇親会）

場 所：品川プリンスホテルメインタワー38階「味街道 五十三次」

〒108-8611東京都港区高輪40-3

（電話03-5421-7866）

交通アクセス：JR線・京浜急行の品川駅（高輪口）より徒歩約5分

会 費：6,000円（和食）

出欠の確定：同封の郵便振替用紙の払い込みの有無により出欠を確定させていただきます。

なお、準備の都合上、払い込み期限は10月7日（木）と

します。

また、10月14日（木）までに出席取り消しをお申し出の

場合、会費を返金いたします。

その他：今般、会費等の郵便振替用紙は広島二中卒の方から広島観

音高校第30回卒まで方を合わせ、約600名の方々にお送

りいたしています。お知り合いの方で同振替用紙をお受け

取りでなく、かつご出席希望の方は左記の幹事までご連絡

いただければ同用紙をお送りいたします。クラスメイト、

同期の方、部活の仲間を誘ってご出席ください。

在京芸陽観音同窓会

副会長 横野 弘二（広島観音6回）

第24回在京芸陽観音同窓会

幹事 今田（山本）浩子（広島観音16回 鉄井組）、

TEL/FAX：03-33481-9665

E-mail：hiro.imada@poplar.ocn.ne.jp

沖野正則（広島観音16回 橋本組）

TEL/FAX：0463-22-6962

E-mail：nice-shonan60@na.scn.net.ne.jp

片田元己（広島観音16回 橋本組）

TEL/FAX：042-331-7971

E-mail：katadam@wish.ocn.ne.jp

高木（高山）香代子（広島観音16回 正田組）

TEL/FAX：03-3760-3873

E-mail：nakameguro@juno.ocn.ne.jp

### 維持会費納入に関する 事務局からのお願い

会則により会員各位には、入会時には初期会費として3,000円を、その後は翌年度以降、毎年維持会費として1,000円を納めて頂くことになっております。

恐れ入りますが、既に初期会費を納入済みの方で、平成20年度以降の維持会費を未納の方は、3年分の3,000円を、21年度以降、維持会費を未納の方は2年分の2,000円を、お納め下さいますようお願い致します。

もし各位の納入状況と異なる振込取扱票が入っていましたら、事務局までご連絡下さい。

事務局 瀧山 昇（広島観音9回）

電話：045-983-5992

# 在京芸陽観音同窓会報

## 第二十三回在京芸陽 観音同窓会開催のご報告

年当番幹事 三原 孝彦  
(広島観音10回)

首記同窓会が広島二中、観音高OB & OGの多年次にわたる参加者を得て、平成21年10月25日(日)、東品川の天王洲アイル駅近くにある『クリスタルヨットクラブ』に於いて盛会裡に開催されましたのご報告いたします。

今回の参加者は合計77名(一中・6名、観音・71名)のうち観音3回の広島方面からの特別参加12名を含む)の多くを数えました。

当日の模様について別途、山木副会長の報告にもありますように大変盛り上がりたことので幹事側としては、苦勞し汗を掻いた点が報われた感がいたします。

会の内容については、当初の予定を一部変更したものの図1に示すプログラムの通り滞りなく進行了ました。以下特記事項を羅列しましたのでご覧頂ければ幸いです。

・幹事役、三原の司会でスタートし最初に物故者3名、故坂下雅章(二中12回)、故高橋昭(二中20回)、故相繁太郎(観音14回)の御霊に黙祷を捧げた。

・開会挨拶、事業報告は首都圏で意義あるこの会に対して松本、山木、滝山の各大先輩から格調高くも心強いスピーチを頂いた。また合わせて同会の役員の再選、改選のご提案があり参加者は賛同の意を表した。

・乾杯挨拶は、当初三宅先輩にお願ひするも都合により急遽、最長老の伊藤先輩にお願ひして威勢よく張りのあるご発声には皆背筋が伸びる思いでご唱和し会食懇談に入る。

・会食は、年次毎に大小テーブル11ヶ所に分かれ和氣諷諷の雰囲気の中でシーフードに舌鼓を打ちながら大いに談笑。

・プログラムに記していないイベントとして会場備え付けのテレビモニターによる母校の現況紹介、会食大詰めで見役サッカークラブ活躍記念のTシャツプレゼントまた番外として東京広島県人会の依頼により県人会のPRを同会委員の斎藤敏文氏(観音23回)から説明などを行った。

・宴も終り頃、校歌斉唱と進み、エール交換は若手代表の内富幸司氏(観音18回)の音頭で盛り上げた。

・閉会挨拶は、中締めを兼ね中村幹事役より述べ宴を終了し、クルージングに移った。・参加者はレストラン傍に横

付けされたLADY CRY STALID号(定員200人)に乗船し京浜運河の天王洲のウォーターフロント、東京湾のレインボーブリッジなどを観光しながら談笑に、スナック写真にとアフタヌーンクルージングを大いに満喫した。

・定刻に下船、直ちに船をバックに初トライの全員による集合写真を横野先輩に撮影を委ねた後無事を確認し散会。

・同会の報告の終わりに当たって幹事役を振り返ってみますと前回開催の1ヶ月後に事務局より次の当番幹事ですよと召集を受け出頭した田中秀穂(観音11回)、中村洋一郎(観音11回)そして筆者の3名が自動的に任命され、事後、事務局のご指示並びに援助を受けながら同窓会準備の年間スケジュールの遂行に努めました。

特に会場選びには制約が厳しく、時間、手間を掛けました。田中幹事の提案、交渉による『クリスタルヨットクラブ』がリーズナブルな選択でした。一方、案内状の段取り、会場の設定準備など何分不慣れな男手だけでこなさざるを得ませんでした。結果として毛利元就の『三矢の訓』よろしく終始一貫3人でいろいろな障害を何とか乗り越え、無

事に同窓会を終えた後、昨年11月の事務局による会合にて次回幹事予定の観音16回の精鋭にバトンタッチして漸く重責を果たすことが出来ました。

### 第23回在京芸陽観音 同窓会プログラム

日 時 平成21年10月25日(日曜日)

受付開始 12時00分

会場 クリスタルヨットクラブ内  
レストラン

東京都品川区東品川  
5-9-16

開 会 12時30分

幹 事 三原孝彦  
(広島観音10回)

開 会 挨拶 黙 禱

理 事 松本正  
(広島二中22回)

事業報告 副会長 山木和雄  
(広島観音3回)

理 事 滝山昇  
(広島観音9回)

乾杯挨拶 伊藤得平(広島二中12回)

会 食 懇 談

校 歌 斉 唱

エール交換 閉会挨拶 中村洋一郎  
(広島観音11回)

(中締め) クルージング

14時15分 解散 15時15分

## 第二十三回在京芸陽 観音同窓会開催のご報告

山木 和雄(広島観音3回)

ご覧ください。皆さん!

この次頁紙面の写真です。ついに実現した同窓会初の全員参加者の写真です。ヨットをバックに50mも離れたクラブハウスの2階から撮影に成功しました。写し出された一流モデル(?)の顔は、実に鮮やかで、豊かな表情が、手に取る様に判別できますね。これぞ正にカメラの進化の威力! 否、撮影者の究極の技と云えましょう。グランプリ賞に輝く榎野弘二(広島観音6回)カメラマンに乾杯!

第二十三回在京芸陽観音同窓会は、当番幹事十回生、十一回生、(残念ながら十二回生は一人の参加もなく自から幹事役も放棄)のユニークな企画に魅かれ、史上二番目の参加者を記録しました。喜寿を

最後にいろいろご援助頂いた山木副会長、事務局の瀧山理事にお礼を申し上げると共に参加者の皆様方のご協力に對して心より謝意を表したいと思ひます。

# 在京芸陽観音同窓会報

寿ぐ、三回生の大量参加もあり(総勢22名)、会は一層盛り上がり、恒例行事(事業報告、乾杯、校歌、エール交換)の外に提供された数々の催しに歓声を上げ、フィナーレの東京湾ヨットクルージングは、若き日の楽しい思い出(修学旅行?)を、皆に蘇らせてました。

―同窓会とは、人々が長旅に疲れ、砂漠でオアシスにめぐり会うようなもの、航海の船が立ち寄る港で、安息を得るが如き存在、と述べられた、元、広島会長(故人)の言葉が思い浮かびます。

満ち足りた思いで、この集合写真に登場した人々の顔には、明るい未来が漲っているようにも思われます。(このヨットの映像DVDは、松本理事(二中22回)より収録されていますので貸し出しご希望の方は事務局までご連絡ください。)

さて、愈々今年は若き十六回生の幹事役初登場です。きっと我々に若い息吹を注いでくれることでしょう。

皆様、(1)頁にご案内の第二十四回在京芸陽観音同窓会スケジュールをご熟読の上、多くの仲間を誘って再会しましょう。



## 平成二十二年 在京芸陽観音同窓会役員改選のご報告

平成21年10月25日に開催されました「第23回在京芸陽観音同窓会総会」に於きまして、平成22年度の役員のご紹介があり、副会長山木 和雄氏(広島観音3回)に代わり、横野 弘二氏(広島観音6回)が選出され、ご出席会員の満場一致で承認をいただきましたので他の理事とあわせて紹介いたします。

会長 西亀 達夫

(二中9回)

副会長 横野 弘二

(広島観音6回) 新任

理事 松本 正

(二中22回)

理事 瀧山 昇

(広島観音9回)

理事 古田 正雄

(広島観音14回) 新任

理事 松本 直和

(広島観音20回)

別途横野野副会長のご挨拶を掲載いたします。

## 継続と人の群れ

在京芸陽観音同窓会副会長

横野弘二(広島観音6回生)

継続は力なり



横野 弘二

平成22年4月、山木和雄氏(広島観音3回生)の後任として在京芸陽観音同窓会副会長に就任した。私の好きな言葉を一つ挙げると、それは「継続は力なり」である。「継続は力なり」とは何か一つのことを継続していくことによって、大きな成果や立派な実績を挙げることが出来るという意味だ。

例えば、マリナーズのイチロー選手は、昨年9年連続200本安打の大リーグ新記録を樹立、今年も10年連続200本安打を狙っている。また、魁皇関は、今年の夏場所を終えて幕内在位101場所、幕内通算勝ち星832勝の歴代1位の偉業を達成した。200本安打、832勝とはいえ、1安打や1勝の積み重ねと継続こそが、こうした栄誉を生み出したといえよう。

私はリタイアして12年になり、趣味の写真は20年のキャリアで多くの写真コンテストに入賞・入選。地元墨田区のボランティアとしての街並み

を定点撮影するプロジェクトは、7年目の活動を継続。また、この数年間、在京芸陽観音同窓会における記念写真を担当。このように写真は面白く奥の深さを痛感しながら、さらに前向きな写真活動を継続するつもりだ。

振り返ると、在京芸陽観音同窓会は昭和62年に第1回が開催、毎年継続されて今年第24回を迎える。当初は広島二中卒業生の参加が多く続き、平成17年の第19回の開催からは広島観音高卒業生が開催の役割を担い、同窓会会則なども策定するなど、「継続は力なり」を実証してきた。このような歴史と伝統を持つ本同窓会が今後も継続され、新たな発展を期するためには両校卒業生や会員の皆様の前向きな支援と協力が必要であると共に、副会長としては幹事の皆様との連携を強めて、微力ながらも出来る限りの努力をすることにより、その任を全うしたいと思う。

人の群れを作る

ある新聞の投書欄で次のような投稿を見た。「私は今春高校に入学した。新しい友達や先生、生活環境の変化に多少の不安を感じつつも期待で胸がいっぱいだった。そして、学校で友達になる第一歩が携

携帯電話のメールアドレスの交換であることにとっても驚いた(以下略)。この投書にあるように携帯電話によるメール交換は広まっているが、朝夕の挨拶から日常会話まで交換することで本当の意味での友達になれるのかどうか、いささか疑問が残る。

さらに最近、英語で「さえずり」や「つぶやき」を意味するツイッター(Twitter)とあって、パソコンや携帯電話から140字以内で短文を書き込める無料簡易投稿サイトが注目され、ゆるい人と人との繋がりが発生するコミュニケーションションと言われている。しかし、有名人に限らず、見知らぬ人などの鋭い見解や主張が見られる「つぶやき」は、読み応えもあり返信したくなるが、「おはよう。今日は晴れて暑くなりそう」などといった単純な会話内容の「つぶやき」だけでは、真の意味での人と人との繋がりにほならな

いと思うのだが。やはり、メール交換やツイッターなどの手段だけではなく、人と人とが互いの気持ちや考えを確かめ合えるような「人の群れを作る」ことが、人と人との繋がりに必要かも知れない。特に一人暮らしの

高齢者に多く見られる会話のない生活は空しく、寂しいものだと言われている反面、確かに孤高を守ることで「人の群れを作る」ことに抵抗を感じる人も多いようだ。

とはいえ、趣味のサークルや住む町のボランティアでの活動、そして誰もがどこかの学校の同窓会に参加することは、良い意味での一つの「人の群れを作る」ための手段ではないだろうか。そこで、第24回在京芸陽観音同窓会に多くの卒業生や会員の皆様が進んで出席されるよう心から期待し、次のようなメッセージを残したい。

雨来奥窪氏は会の要・事務局長として大車輪。司会にも色々工夫して盛り上げました。NHKテレビが取材に来て、「カープ頑張れ、エイエイオー」全員で唱和したのも懐かしい思い出です。

「さあ、お互いに元気な姿の笑顔でお会いし、話し合いましよ。そして新たな人の群れを作りましょ。」

その労苦が実を結んでか、旗揚げ以来23年目に及ぶ現在、栄えある二中の伝統を受け継ぎながら、「在京芸陽会」は観音高校卒業生たちの手で立派に運営されています。彼なくしてはこの会は無かった、と言っても過言ではありません。

「当会の生みの親・奥窪先輩逝く」  
松本 正(二中22回)

近年パーキンソン病と言う難病と闘い続け、遂に力尽きました。

コレデイイノダ!

松本 正(二中22回)

「何期の誰方ですか?」  
正直この問いかけにショックを受けた。昨年の在京芸陽観音同窓会の受付においてである。

自慢するわけじゃないけど、この会を作った一人であるという意識と自負を持っている。

23年前、大手町での旗揚げ総会以来、定席に移った日本青年会でも私が作った校章入りの看板を飾っていた。二中の同期会報でも逐一この活動を伝え、それを完結させた後は「在京芸陽」と題した雑誌形の会報を3号まで私一人の手作りで出したものだ。

もちろん世話役として同窓を迎える立場だった。受付スタッフがまごついていると「何期の誰それさんだよ」教えていた一人が私だったのだ。

それが「誰方?」  
無理もない。品川クリスタルヨットクラブの会場に駆けつけるのに手間取り、遅刻ではないが既にかんりの数が揃っていた。今回の当番は観音10、11期とか。私から見れば若い人たちが受付に並んでいる。名札を付けたところで、ようやく三原幹事が「開会挨拶

抄をしてくださる松本先輩ですか!」と気づいてくれた。

「同窓会をやるなあええが、二中だけにしてくれよ」という二中先輩の声もあった。

「それじゃあ先がありませんよ。観音に繋がりにゃあ」と逆らって苦心しながら在京の観音卒業生を探し出し、この会を継いでもらったのである。

今日では運営の全てを観音後輩に譲り、会報も任せるようになった。私の願望どおりである。

「何期の誰方ですか?」  
コレデイイノダ!

ねぎの会・観音3回生の喜寿の集い

山廣 恵(広島観音3回) 7年前の同窓会通信のコラムに、「古希の会は和やかに更け、喜寿の再会を約して終宴」とある。信じられない時の早さで、夢のように7年が過ぎ、その喜寿を祝う会を、平成21年10月23・24日に、熱海のロイヤルウィングで、14名の参加者を得て開催した。中には、卒業以来、55、6年ぶりの再会という友人もいて、

# 在京芸陽観音同窓会報

(5)



## 【観音3回・喜寿の会

参加の皆さん(計22名)

(在京) 伊藤俊彦 平塚 功  
森政忠雄 山本和雄 大谷末  
子 榎田美保子 眼龍朋子  
矢澤朝乃 山田桂子 山本豊  
子 (関西) 茨木幹夫 永井  
賢三 西尾敏子 (広島) 坪  
井 崇 平山多秋 増田秀雄  
味埜正明 横田修治 小浜美  
恵子 紫村政子 谷本峰子  
(福岡) 山廣 恵

## 観音10同期会開催

三原 孝彦(広島観音10回)

09年12月4日、横浜中華街の『萬珍樓』本店にて、在京観音10同期会を行いました。

参加者は9名、先だつて行われた23回在京芸陽観音同窓会に出席出来なかつた者からの強い要望もあつて同期の有志が参集しました。在京として卒業後50年にして初めての同期会が実現しました。喜寿を寿ぐ観音3回生のような迫力は無いですが、我々、丁度古稀を迎えて高校時代の昔話、あるいは近況の情報交換にと話が広がりボルテージが一気に上がりました。次回の同窓会での再会を期して散会しました。

【出席者】合志絢子、源賀津子、山根華子、毛利道子、高木明

子、岡寄巖、奥本泰生、平賀源太郎、三原孝彦

## 観音第14同期生(関東地区在住者)近況



藤谷 十一(広島観音14回)

観音第14同期生(昭和35年卒)で関東地区に在住する者は、「東京ポプラの会」(在校時校庭にはポプラの木があつた)という会のメンバーになつて毎年懇親会を開いていきます。集合場所は第1回以降東京都内が多く、時間は1日帰りだったので、平成19年は第20回を記念して、はじめの1泊旅行を蓼科高原(長野県)で行いました。1泊なら夜遅くまででもくつろげるし、日帰りとは違うたいへん楽しい懇親会になりました。その良さが忘れられず希望者も多かったので一昨年の第21回も1泊の懇親会を山中湖畔

で行いました。

費用、時間、それに健康(体力)のことなどを考えると毎回1泊旅行を続けることもできないので、昨年はまた日帰りの懇親会に戻り5月16日(土)に行いました。ただ、やり方は以前とは趣向を変えました。

以前は食事会場に集合して飲食をするだけのやり方でした。それでも充分懇親の目的を果たすことは出来るのですが、せっかく旧友どうしで出会うのだからもつとながしい時間と一緒に愉しく過ごしたいという意図から、食事の前、明るい時に名所巡りをすることにしました。東京での名所はいろいろ数多くありますが、その時は映画「男はつらいよ」で有名な葛飾区の柴又界隈がよいと考えてそこに行つてみることにしました。柴又からは「矢切の渡し」を舟で渡れば「野菊の墓」の碑も見に行けるので散策場所としては旧友と語りながら歩くのに快適なところですよ。その日は暑くもなく寒くもない絶好の天候だったので快適さをさらに増すことになりました。

散策のあとは、銀座の食事会場へ。散策に参加しないで直接会場に行った者もいて、会場には13名が集まりました。「東京ポプラの会」で懇親会に

出席する者は例年このくらい的人数です。

昨年は「東京ポプラの会」に哀しいことがありました。一昨年山中湖畔の時には元気で参加した会員がその後入院、経過がよくなって5月12日に亡くなつたのです。幹事にその知らせがあつて、16日の会で参加者にそのことを報告しました。会は急遽故人を偲ぶ会という趣旨に変えて行いました。それでも目的は果たして、昨年の「東京ポプラの会」も無事懇親会を終りました。

## 観音20同期会開催のご報告



松本 直和(広島観音20回)

1日時..10年2月27日  
17時30~20時30  
2場所..福福亭(新宿)  
3参加メンバー..

観音20回 25名

在京芸陽観音同窓会報

(6)

今年還暦を迎える在京のメンバー25名が、前祝として集まりました。

既に、悠々自適に暮らしている方、ご主人がリタイアされた方、そしてまだ現役で活躍されている方、広島に戻られて上京されてきた方、親の介護のために広島に戻られる方、ご息子が東京転勤に合わせついでに参加された方と人生いろいろでした。はじめは各テーブルに分散して乾杯からスタートし、自己紹介を兼ねてショートスピーチの後、すぐに昭和44年にタイムスリップしてしまい、短い3時間でした。

今回は、3Aの升田さんが幹事をしていただき、東京及び周辺におられる多数の方にのご案内いただきました。

今回は、11月に還暦本祝いの会(感謝カンレキの会)で盛り上がる予定です。その前に在京芸陽会も多数参加をお願いいたします。また、今回残念ながら参加できなかった方の参加を期待しております。(写真はお店にて)

追記..翌日、参加者のうちの有志4名はゴルフに行かれたそうです。アクアラインを通ると聞いておりましたが、前夜、チリで大地震が発生し津波警報が当日出ました。津

波の影響は大丈夫だったのでしようか。

当日の参加者(敬称略)

A組 田中 升田 高橋  
小豆原 中島 宇治

B組 藤原 申山  
C組 栗栖 松本 升野  
岩瀬 大歳 松原 木村  
F組 小林 齋藤 森山 猪原  
H組 志和木 掛水 西本

I組 佐藤 安岡  
転出 岩崎\*

在京芸陽観音同窓会 2008年度決算報告書(単位:円)

2009年3月31日

前年度繰越	442,091	
<b>収入の部</b>		
総会会費	300,000	
初年度維持会会費	30,000	
年維持会費	146,000	1年分、146名
	54,000	2年分、27名
利息等	30	
広告費	10,000	
計	540,030	
<b>支出の部</b>		
総会関連費用	297,098	
会報印刷費	168,000	
振替手数料	24,570	
打合せ費用	48,892	
その他	63,623	(注)
計	602,183	
次期繰越金	379,938	(前年度) ( 442,091 )
内訳		
普通預金	2,245	( 21,215 )
振替口座	359,470	( 404,440 )
現金	18,223	( 16,436 )
<b>(注)その他</b>		
郵送費	45,120	
用紙・コピー代	3,410	
写真代、謝礼他	14,693	
振替用紙印刷代	400	
計	63,623	

以上相違ありません

観音8回卒幹事 宇都宮浩三 

(敬称略)

平成21年度維持会費納入者名簿

二中 東京都

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Tokyo (二中).

神奈川県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Kanagawa (神奈川).

千葉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Chiba (千葉).

埼玉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Saitama (埼玉).

他県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from other prefectures (他県).

観音 東京都

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Tokyo (観音).

神奈川県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Kanagawa (神奈川).

千葉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Chiba (千葉).

千葉県(続き)

Table with 3 columns: 回, 氏名. Continuation of Chiba members (千葉).

埼玉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Saitama (埼玉).

他県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from other prefectures (他県).

注)平成21年8月19日に高津郵便局から維持会費を振り込まれた方のお名前が不明です。お心当たりの方は事務局までご連絡下さい。

平成21年度初期会費納入者名簿

(敬称略)

初期会費

二中 神奈川県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Kanagawa (二中).

観音 東京都

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Tokyo (観音).

神奈川県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Kanagawa (神奈川).

千葉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Chiba (千葉).

埼玉県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from Saitama (埼玉).

他県

Table with 3 columns: 回, 氏名. Lists members from other prefectures (他県).

※以上、202名の皆様、ご支援有難うございました。

(平成22年3月末日現在)

一筆啓上

近況―「徒然なるままに物書き、読書、そして万葉集」



山木 和雄(広島観音3回)

人は齢をふる毎に4つ足時代に還るのかもしれない。喜寿を迎え2本足で長時間を過ごすことに、いささか苦痛を覚える毎日である。渡辺淳一氏によれば、人間の成長は18歳頃がピークで以後は衰退の一途を辿る。蓋し人間程、その後の体力、智力を長く維持し醸成する動物も珍しいと。確かに秀れた文芸作品の晩年に輩出するのも事実である。されば凡人の私にもチャンスありとばかり吉田兼好よろしく「徒然草」を片手に机に向かう。：が、どうも心が落ち着かない。このところ、私的人物忘れ現象は我ながら呆れるばかりで、思いつく語彙、漢字の書体をすっかり忘れていく。特にボケ老人の一步手前

となる瞬間記憶の喪失が甚だしく、家の至る処に物を置き忘れる。この瞬間記憶はゴリラが最も高いとされ、原始に近づく私が何ゆえにゴリラに年々遅れをとるのか!? ゴリラのそれは森の中の外敵から身を守る為の防衛本能として発達したものと聞き、なれば今の私の状態が至福の境地なのだと、自らを慰める昨今である。

物書きがダメなら、せめて読書をと書齋に向かう。私の幼少期は太平洋戦争の最中であつた為、読みたいと願つた本は皆無の状態であつた。その為か書籍に対する私の飢餓感、未だに払拭されず今日に至り、その購入癖はとどまることを知らず、：未読の本を含めた数千冊がホコリを被り本棚に並ぶ。私の好きだつた清張、漱石、周平、更にはヴァンダイン、クイーン、セイヤーズ、クリステイと云つた作家の卓越したストーリー展開、謎解きに我を忘れ徹夜も厭わず熱中した若き時代が懐かしい。最初の2、3頁を開いたところで、睡魔に襲われ、書籍に埋没する昨今では、毎週手にする週刊誌にさえ、読書時間を追われる始末である。こうした日々の中で唯一私を和ませてくれる一頁

がある。それは毎週、週刊新潮に登場する「管見妄語」である。これを執筆されているのは日本有数の数学者である藤原正彦氏で先般ベストセラ―となつた「国家の品格」を著されて以来、大のファンとなつた。世相への優れた洞察力と愛国の念が、エスプリのきいた豊富な語彙で占められる。軽妙洒脱なエッセイをぜひ皆様の眼で確かめていただきたい。

万葉集との出会いは2年前にさかのぼる。即位20周年の式典を終えられた後の陛下のコメントに「今、一番の楽しみは、NHKの日めぐり万葉集をテレビで見ることです!」etc.があり早速番組のチェック、解説書の購入に走つたのが始まりであつた。そして70歳を過ぎた今日迄、日本の至宝とも云うべき万葉集に関心なく見過ごした自分を恥じた。「日めぐり万葉集」には数十名の各界ご活躍の著名人が出演され、自己の推選歌をご披露されるが、かくも多域に亘る万葉ファンの出現にまず驚かされた。西暦600年代の昔、世界広しと云えどもこれ程迄に洗練された文化の粋を世に残した国は他に例を見ない。身分の上下を問わず数多く

の歌人たちの想いが実にのびのびと且つおおらかに歌い込まれている。その資質の高さは当時の日本人の知的水準を表すものであり、1300年を経た今日でも実にみずみずしく、違和感を覚えない。こうした歌は想像力なくしては生まれぬ。そして想像力は人を思いやる心、自然を慈しむ心を育む。今、世界の各地から目を向けられ、約20カ国への翻訳書が出版されていると聞く。この我らが誇る日本文化の粋が美しい風土の象徴として、世界の人々の心を癒し平和への思いを呼び醒すことを祈つてやまない。最後に歌集の中で、最も好きな歌2首を皆様に捧げ私の拙文を閉じたい。

○熟田津に 船乗りせむと月待てば 潮もかないぬ 今  
は漕ぎ出でな (1-8)  
○我が背子を 大和へ遣るとさ夜更けて 暁露に 我が立ち濡れし (2-105)

観る・聞くコンサート

矢澤 朝乃(広島観音3回)

歌舞伎は耳で聴きながら観て、音楽会は目で観ながら聞くのが大好きです。S席でも



指揮者の後姿だけ見ているのではつまらないのです。私は、指揮者も演奏者も間近に見える席を年間予約してあります。

第一バイオリンの直ぐ後の二階で、前に人の頭が邪魔にならない席がサントリーホールでも東京芸術劇場でも私の常席です。演奏者が自分の演奏以外になると、例えば、ティンパニーが太鼓の調子を目たり、くねくねと曲がつたホルンやフルートの管の中をお掃除しているのを見えます。色々な管楽器が見えるのも楽しいのですけれど、どうしても見届け聞き届けてみたいことがあるのです。

擦弦楽器では二人で一つの楽譜を見えていますよね。切れ目のない演奏中に次頁に移る時に一人の人が譜面を捲くりますが、そのときのバイオリンの音量が半分になるかどうかその瞬間を待っています。長年の間には、ハツとするそ



の瞬間が何度かありましたが、私の耳が悪い為なのか、音が半分になったか否か未だにはつきりしません。ポータブル字幕機がある時代に譜面を捲くったり弓でページを押さえたりする動作は、何とかならないのかと考えているクラシックファンです。

体の大きなイタリア人の指揮者がA5判位の小さな楽譜と言っても分厚い本を左手の太い指で捲くっているのは見ものです。大曲が終わると必ずにっこりと私の方を向いて笑ってくれるのです。(第一バイオリンの上の席なので)

K指揮者は、余り踊り過ぎてコンサートマスターの楽譜を床に落としてしまい「あらー」と思ったら指揮台から降りてご自身で拾ってあげていました。指揮をしていない間も曲は休まずどんどん進んでいました。

N響でS指揮者が初めて振った時、他のコンサートで私が何度も聞いていたので友人に「Sさん、首が土竜叩きに合ったみたいよ。」なんてお喋りしたので、曲が始まってから思い出して笑うのを堪えるのに困ったとか…。

N(女性)さんは、宝塚の男装の麗人を見ているみたいで女性のファンが多くて会場

で思いがけない方に出会います。タキシードの肩から頸部にかけて美しい刺繍がしてあり、ローヒールの靴でも背が高く足が長くて素敵です。

女性のソロ演奏家の服装には特に興味がありドレスばかり見ているみたいです。

年間30回以上もコンサートに行き一体私は何を聞きに行っているのでしょうか？

駆け出しの新前の頃の演奏家が、何年かたって世界中で目覚ましい躍進ぶりを見せてくれたり、又、しばらく見えなれど思っていたら歴史上の人物になっていたりで、音楽を聞くのも長生きをしていると自分なりに楽しめますから、耳が聞こえる間はもう少しホールに足を運びたいと思っています。

瀬戸内海帰

松原 邦雄 (広島観音20回)

母校の卒業式を終えてその午後上京、以来、大学、職業ともに郷里を遠く離れて41年余、年が改まると早や還暦を迎えます。

勤め人生活30年目の頃から、脱組織・脱消費・脱東京を実行すべく、なんとか広島に生

活点を得たいとの思いはいよいよ昂じ、54歳に組織勤めを辞めるのを機に、広島湾口の阿多田島に古家を取得しました。

目下のところ、生活の本拠地である茅ヶ崎市で身障中学生の介助の仕事に従事しておりますので、島へは学校休暇にはゆつくりと、また学期中でも短時間であれ毎月のように出かけております。むこうでは竹退治と少々の家事、あとは本読みとご近所付き合い程度の変哲ない、のんびりした暮らしです。

実家は広島市内の商家で、小さい頃から学校休みには配達仕事に良く刈り出されました。一日の終わり近くになると自ずと瀬戸の夕日に手を合わせた毎日が今こうして甦ったことに、連綿とした時の流れと掛け替えのないうれしさとを実感しています。

軟式テニスの思い出

千川 一司 (広島観音23回)

私が観音高校に在籍していたのは、昭和44年4月から昭和47年3月の間である。在校時は、軟式テニス部に所属し活動していた。因みに199

2年以来、軟式テニスはソフトテニスと改称されている。

当時コートは学校の外、確か学校の北西方向に徒歩で約10分の距離にあり、二面のクレー・コートがあった。コートは金網のフェンスで囲まれていて、数本の高木が周辺に植えてあり、コート脇に物置小屋があった。その小屋の傍で学生服から体操服に着替えてテニスをやっていた。男女を問わず適当に着替えていたので、長閑なものである。

テニス部長は、英語の教育を担当されていた大塚先生であった。コートで先生をお見かけした記憶はあまりないが、校内で先生と出会った時は、よく声をかけていただいた。

テニス部員は、男女合わせて十数名だったと思う。男子、女子が一面づつコートを使って、雨の降らない日に練習をしていた。日曜日や夏休みの時にも練習をしていた。その割には、私が対外試合で勝った記憶はほとんど無い。しかし一年上に、テニスが強く学業も優秀という絵に描いたような素晴らしい先輩がいた。私の同級生は、テニスの成績はあまり揮わなかったが、学校の成績は概して良かったと思う。

私は高校を卒業して関東の

大学へ進んだ後、そして就職してからも平成元年までは軟式テニスを続けた。職業の関係上、北は青森県から南は沖縄県まで各地を転々とし、色々なところで軟式テニスをした。大学の時には、関東リーグ8部であったが、ペアとして全勝し敢闘賞をもらったことが、数少ない栄誉の記録である。

平成元年に青森県で勤務時、私の周りに軟式テニスをする人がいなくなつたので、仕方無く軟式の打ち方で硬式テニスを始めた。

しかし軟式の打ち方では、バックのストロークが難しいので、ウエスタン・グリップからイースタン・グリップへ一年間かけて握り方を変えた。ところが驚いたことに、その後軟式の打ち方ができなくなつてしまった。それ以来現在まで、専ら硬式テニスを楽しんでいる。住宅のある市の市民大会や職場のある区の区民大会にシングルスでエントリーしてプレーを楽しんでいる。

そのような状況の中、月に一度ソフトテニスをする機会があり、仕様がなから硬式の打ち方でソフトテニスをしている。早い球こそ打てないが、休から離れた所の球をボールでできるので、仲間から意

外に思われている。

中学からテニスを始めて4年になるが、高校の時の思い出も貴重なものである。高校を卒業して以来、広島以外の地で生活してきたので、同級生はその後どうしているのか、コートはどうなったのか、今の後輩たちはどのような活動をしているのかなど気になるこの頃である。拙い文をご精読ありがとうございます。

私の履歴書 (波乱万丈の青春)

第一章 高校時代 (大歳文雄 (広島観音20回))

(☆印は、当時のレコード大賞受賞曲です) 昭和41年(一九六六年)観音高等学校第20回生として入学。課外活動は、E.S.S.に所属。文化祭では、英語劇に出演した。在校中に愉快な仲間達に会うことが出来た。個性豊かな仲間だ。目立たない生徒であった。

☆霧氷、ブルーシャトー、天使の誘惑。

第二章 大学生時代

安保反対、東大紛争など社会が荒れていた。昭和44年(一九六九年)4月 広島商科大学入学。同年5月少林寺拳法同好会に入会。4年間は学問こそで、少林寺拳法には打ち込んだ。毎年香川県多度津市の本山には帰山していた。

この頃の人生におけるバックボーンが形成されつつあった。☆いいじゃないの幸せならば、今日でお別れ、また逢う日まで、喝采。

第三章 社会人になって

昭和48年(一九七三年)4月地元建築会社に就職。広島銀行本店建築工事現場に配属。6ヶ月で退社。翌年、精密機器・宝飾製品の販売会社へ中途採用された。振り出しは、広島支店 宝飾営業に配属された。6ヶ月後、腕時計の販売に配属され山陰地方・広島県内を担当。昭和50年(一九七五年)我々が広島東洋カープがセントラルリーグ初優勝。その日尾道に居た。仕事が手につかなかった。カープ優勝記念時計の企画販売、広島市民球場のバックスクリーンにCITIZEN大時計を設置したのはこの頃だった。

この間26歳で結婚。一男一女に恵まれた。長女が生後3ヶ月で山口県の下関営業所へ転勤。子供を持つ事で仕事に対しても腰が座って来た。 ☆夜空、襟裳岬、シクラメンのかほり、北の宿から、かっぴにしゃがれ、UFO、魅せられ

この頃全社イベントとして、全国優秀セールスマンコンテストが始まり、お陰様で2度入賞させて頂き、東京品川プリンスホテルでのサクセスストーリーの発表会と優秀セールスマン授賞式に出席。これがきっかけで憧れの海外勤務が実現。中南米パナマで駐在経験

のある先輩からであった。「今度、アラブ首長国連邦のドバイに進出のプロジェクトが立ち上がった。俺と一緒にやってくれないか?」「えっ? ドバイといえば連合赤軍の乗っ取り事件があったところでしょ?」こんなやり取りの末、家族と父親を説得し、あこがれていた海外勤務を決心した。

☆雨の慕情、ルビーの指環、北酒場、矢切りの渡し、長良川艶歌、ミ・アモレ、DESSERT E、愚か者、バラダイス銀河。 38歳の10月東京本社の海外営業本部へ異動。一九八九年2月、アジア営業部長と成田空港からドバイ直行便での赴任。夜中の12時頃 DUBAI International Airportに無事着陸。入国審査を済ませ、ホテルに直行チェックインを済ませた。全てがアラビア語と英語の世界だ。長旅で疲れていたので1時半頃就寝したが、夜中に何度か目が覚める。眠れない。これから先本当に俺は、大丈夫なのだろうか? 等考え事ばかり。熟睡出来ないまま朝が来た。早朝の空は日本とは違っていた。異国の空だ。イスラーム教の第1回目のお祈りの放送がホテルの外で聞こえる。これが1日5回も在るのだ。人生初のイスラーム教だ。本当に信心深い民族だ。一神アッラーに対するお祈りだ。午前8時にインド人の総務部長が迎えに来てくれた。Free zone (関税特恵地区)にあるオフィスへ向う。8時過ぎというのに気温は既に30数度だ。午前8時30分 CITIZEN Watches GULFに無事着任。ミッションは、中近東市場に

おける代理店経由の腕時計の拡販。業務範囲はマーケティング、営業、ウエアハウスのオペレーション管理等、広範囲に亘る。販売代理店はアラブ首長国連邦、サウジアラビア、オマーン、カタール、エジプト、イエメン、つまりシナイ半島全域とエジプト、インド。日本人2名とインド人、スリランカ人、フィリピン人合計約30名での経営である。早速、会社設立パーティーの開催準備に追われる。招待客は、Free zoneの長官はじめ代理店オーナーと幹部の方々。本社側からは社長、専務、部長が出席。約250名の招待となり、Jebel Ali Hotelで開催された。オペレーションはコンピュータによる管理で、仕入・売上管理、販売管理、在庫管理、会計管理、財務管理、etc。 Up to dateでの管理だ。3ヶ月の月次報告書を見て驚いた。販売数量の桁が大きい。国を相手に商売しているんだ。責任重大で身も心も引き締まる思いがした。

日常生活にも少し慣れた頃、日本国内から家内と二人の子供達を呼び寄せる事になった。当時、家内は33歳、長男12歳、長女9歳であった。私と家族は香港で落ち合いい、一夜を香港で過ごし翌日 DUBAI に向った。当時の駐在員の待遇はよく、住居は完全セキュリティーの大型マンションでバスルームが2つある部屋であったが、眼下にはモスクがあった。毎朝第一回目のお祈りの放送で起こされた。最初はこれが苦手であったが少し慣れてくるとその響きはなかなか心地よいものへと代わっていった。

祈禱の際のアラビア語の句「アララーフ・アクバル(神は至大なり)」を解して「天照大神の意」。子供達は日本人学校(小学部・中学部)でお世話になった。一学年一クラスで最低一名から最多でも5名のクラス編成であった。

日常生活は、マンションの一階が巨大マーケットでファーストフードからスーパーマーケット何でも揃っていた。全館冷房設備完備。快適であった。日曜日には、家族連れでスーク(市場)に新鮮な魚介類、野菜、果物の買出しに行く。順調に滑り出した駐在生活であった。当時ドバイには約260名の日本人が居住しており、先人達のお陰で日本人会も組織され活動はしつかりと確立されており居住者全員参加で上手く運営されていた。一九九〇年8月2日午前2時(現地時間)、戦車350両を中心とする共和国防衛隊の機甲師団10万人はクウェートに侵攻を開始した。対岸での出来事だ。湾岸戦争の勃発だ。取り敢えず会社に出社。本社から電話がはいる。リスク対応におられる。

先ず、現地従業員達を母国に帰すためのチケット手配などリスク回避のマネジメントである。最後に我々日本人がどうするかを決断。日本大使館から退去命令が出るまで現地に駐在する事に決断。現地日本大使館から在留邦人の確認が速やかに行われた。

子供達は夏休みで殆どの家庭は日本に帰省していた様に記憶。私も実家にいる家族に直接電話して無事を伝えた。会社のあるFree

艦にはアメリカの空母が係留していた。日中会社の上を低空で戦闘機がクエートに向って出撃して行く。耳を劈く爆音だ。

多国籍軍の幹部達はドバイ市内の5スターHOTELでアルコールを楽しんでいた。後は皆様ご存知の通りの1990年3月3日には暫定停戦協定が結ばれ戦争が終了した。

戦後は、皇太子殿下、雅子様の中近東ご訪問が実現し、お出迎えなどもあった。

1993年日本ではサッカーのJリーグが設立され海外遠征がはじまる。早速、日本人会で応援団の結成である。結束は固い。たまたま声と態度がかいとこの事で応援団長に任命されてしまった。日の丸の応援団旗50本の手配など。太鼓や鳴り物は日本人学校からお借りした。試合は7戦行われた全勝だったように記憶している。

プロゴルフEGPツアーに青木功プロ、水巻プロ、渡辺司プロ、大町プロがEMIRATES GOLF CLUB DUBAIに参戦。日本人会としても応援した。キャディー(グリーンの状態を良く知っている為)やマーシャルでの協力。青木さんは4位に入賞されその晩祝賀会を開催。青木さんは皆様ご存知の通り、気さくな方でサイン、写真撮影などもお疲れにも拘らず快く受けて下さった。

いよいよドバイ駐在も期限が近づいてきた。1995年7月早朝家内と娘は、日本人会の人達に見送られ5ヶ月の駐在を終え無事帰国の途に着いた。(その頃長男

は、英国に留学中)ところで私は、駐在期間中仕事をしていたのでしようか?

☆淋しい熱帯魚、おどるポンポコリン、恋唄綴り、愛は勝つ、北の大地、君がいるだけで、白い海峡、無言坂、OVERNIGHT SENSATION、時代はあなたに委ねている。

帰国後、半年間は、海外営業本部 開発営業部に配属。

1996年4月から国内時計事業本部・特注グループに配属された。ANA機内販売商品の企画販売(スヌーピー時計&ピカチュウ目覚まし時計などオリジナル商品の開発)、読売巨人軍優勝記念時計、長嶋茂雄さんのサイン入り腕時計などその他多数。随分色々な企業にお世話になった。

2000年5月GW明けに出版社と上司から呼ばれた。北京に駐在の辞令である。

2002年に会社が希望退職を募っていたので、応募し28年間の勤務に自ら終符を打った。パスポートは6冊にも及んだ。訪問国15ヶ国。国際線搭乗回数は272回にも及んだ。中身の濃い勤務であった。会社、上司、同僚、先輩、友人、家族に心より感謝します。

☆TSUNAMI、DEAREST、Voyage。

第四章 第二の人生

退職後、第二の人生がスタートした。再就職については、幸いにもIT業界に高校時代の友人が働いており彼の紹介で職に就けた。彼に

は大変感謝している。54歳でIT業界への再就職であったが、何とか4年9ヶ月間勤めることが出来た。2010年還暦を迎える現在は、若い人達に混じって一緒に勉強している。毎日が新発見で学ぶ事の楽しさを実感し充実した毎日を送らせて頂いている。生かされていることへの感謝。健康と平和と友人達と家族に感謝。

☆ No way to say、Sign、Butterfly、一剣、蕾、Ti Amo、Somebody。さて、今年の大賞は?

ゴルフレジャー交友録

三瀬 和夫(広島観音6回) 1963年に三井物産に入社して以来、スペイン、ポルトガル、ブラジル、香港、ブラジルと合計21年海外勤務の後、三井物産を退社。外資系の会社に再就職し、その後外資と組み、新会社を設立した

が事業の発展性がなくなってきたので、2007年会社を清算した。海外が長かった為か、私と観音高校との接触が無く、私が観音6期の同期生の横野君と偶然に虎の門の道路上でばったり会うまで、同窓会の存在すら知らなかったのです。それ(2004年)以来、毎年本会に出席させて

いただいています。皆様とお話している時に、被爆者手帳の話が出て、私も有資格者だがなと思いつつ、どのよう

に申請するべきかと教えてもらった結果、5年前に取得した。本会の長年の幹事役を勤めておられる山木さんとは、同じ己斐町の出身であり、以前からの顔見知りであります

が、本会報でも毎号ゴルフの記事が載せられております。そのゴルフの会の幹事もやっておられることから、ゴルフの会に入りたいがと持ちかけた

ら直ちにOKとなった。私も長年ゴルフはやっていても、の下手の横好きであり、健康維持的ゴルフなのでハンドレイの査定をお願いしたら、早速次のゴルフでやりましょう

と一緒にプレイして、その結果私のハンドレイが決定された。この観音ゴルフ会は、毎度、日本でも有名なコースばかり

編集後記

松本 直和(広島観音20回) 7月24日 奥窪五郎氏(二二二回)が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。氏の功績は、本誌の用文に記載されています。

さて、今回も多数の方から投稿を頂き誠にありがとうございました。昨年より副会長を務めていた

だきます横野様(広島観音6回)のご挨拶を始め同期会報告、近況、思い出をお送りいただいた方々には、お忙しい中のご執筆を感謝申し上げます。

昨年、喜寿を迎えた先輩のお元氣な様子、広島、東京が交流して互いに祝い合う、長く続く友情は羨ましく、正に「継続は力なり」であると思います。今年還暦を迎える20回生も10月に広島で「還暦祝いの会」を、また11月に東京で在京同窓生による「感謝還暦の会」も企画中です。喜寿までは17年、20回生も負けずに喜寿の祝いを目指しましょう。

21回以降の同窓の皆様へ、同期でのご連絡は取られていると思いますが、10月の総会へのご参加や、ゴルフコンペへの参加を大歓迎します。知らない人同士も広島弁ですぐ仲間です。今年は16回生の先輩方が10月総会の企画を進めていただいています。感謝申し上げます。

故奥窪氏の遺志をついで、来年もその先も在京芸陽観音同窓会が続けられ、同窓生の交流、広島との交流が更に発展するよう皆様のご協力をお願いします。そして在京の同窓生諸氏の10月総会参加と交流を、重ねてお願いします。

## '09年芸陽観音ゴルフ会戦記

09年度の芸陽観音ゴルフコンペは若手軍団とベテラン騎士の交錯する戦いとなりました。下表の通り第一戦は平均グロス第2位を誇る松本（広島観音20回）の初優勝でスコアも他を寄せ付けぬ圧勝でした。6月、10月の二大会は名門男の称号を得た山木が2連覇、（尤も75歳以上によるゴールドティーを使っての成果）最後の仕上げは森山氏（広島観音20回）で、名門コースに恥じないベストグロス優勝で大会を飾りました。

メンバーは新加入5名、リタイヤー6名でかなり若返った差引き29名の陣容となりましたが、なかでも最長老川崎氏（広島二中17回）のご活躍が目を引きました。コンペ成績は以下の通りです。来年も4回のコンペを予定していますが初回は4月11日（月）本厚木カントリークラブに決定しています。お申し込みは早めに（4組）お待ちしております。なお、優勝者の弁は初優勝者のみとし、他は写真を持って終了とします。

世話役 山木 和雄（広島観音3回）



### 2009年度コンペ成績（敬称略）

年月日	コース	優勝	第二位	第三位	ベストグロス賞
09.5.10	金砂郷C.C	松本（観20）	田中（観20）	川崎（中17）	松本（観20）
09.6.5	狭山G.C	山木（観3）	川崎（中17）	田中（観20）	森山（観20）
09.10.1	久能C.C	山木（観3）	堂本（観3）	田中（観20）	森山（観20）
09.11.5	飯能G.C	森山（観20）	山木（観3）	斉藤（観20）	森山（観20）



#### 【優勝者スピーチ】

松本 直和（広島観音20回）

5月の金砂郷カントリークラブは好天に恵まれ気持ちよくラウンドできました。前日も湯河原でゴルフをして二日連続なのでスコアは気にしなかったのと、同じ組でプレーしていただいた宮川さん、掛水さんと、のんびりとラウンドできたのが、力が無駄に入らなくて好成績につながったのだと思います。お二人のご協力に感謝します。



山本和雄（観音3回）



森山康三（観音20回）